

水稲病害虫の総合防除剤

STパダン[®]ハッサオリゼメート[®]

粒 剤

水稲害虫に

使いやすい
粒剤タイプ!

いもち病
白葉枯病に



コブノメイガ



イネツトムシ



ツマグロヨコバイ



セジロウンカ



ヒメトビウンカ



トビイロウンカ



イネミズゾウムシ



イネドロオウムシ



ニカメイチュウ



もみ枯細菌病



穂いもち病



葉いもち病



白葉枯病

水稻病害虫の総合防除剤

STパダン[®]バッサ[®]オリゼメート[®] 粒剤

農林水産省登録
第21317号

医薬用外劇物

有効成分 カルタップ ……4.0% BPMC(PRTR・1種 330) ……4.0% プロベナゾール ……8.0%
パダン、バッサ、オリゼメートはそれぞれ登録商標

ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネミズゾウムシ、ウンカ類など幅広い害虫に効果を示すパダンバッサと、いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病に対して優れた防除効果を発揮するオリゼメートを組み合わせた使いやすい総合防除剤です。

適用と使用方法

2008年1月現在

作物名	適用病害虫名	使用量 (10アール当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを含む 農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	3~4kg	収穫30日前 まで	2回以内	散布	6回以内(※1)
						BPMCを含む 農薬の総使用回数 5回以内
						プロベナゾールを含む 農薬の総使用回数 2回以内(※2)
	イネミズゾウムシ	4kg				

※1 種もみ浸漬は1回以内、床土への混和、育苗箱処理、側条施用は合計1回以内 ※2 育苗箱処理、側条施用は合計1回以内

使用上の注意



- DCPA剤との同時施用及び近接散布は薬害を生ずるおそれがあるので、さけてください。
- 砂質土及び漏水の大きな水田での使用はさけてください。
- 湛水状態(湛水深3~5cm)でまきむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また散布後7日間は、落水、かけ流しはしないでください。
- もみ枯細菌病に対しては効果の不十分な場合があるので、もみ枯細菌病のみを対象とすることをさけ、穂いもち病等との同時防除を目的として使用してください。
- 本剤は予防的に散布した場合に有効です。葉いもち防除の使用適期日は、初発の7~10日前ですので、発生予察情報に注意して時期を失ないように散布してください。穂いもち防除の使用適期は、出穂の3~4週間前です。
- また、白葉枯病に対しては、移植後なるべく早い時期に使用の方が有効ですので、移植活着後(移植後7~10日)なるべく早く使用してください。
- なお、出穂以降の白葉枯病、もみ枯細菌病に対する使用適期は、出穂3~4週間前です。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさけてください。
- 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意し、付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 水産動物に比較強い影響を及ぼすので、養魚田及び養殖池等周辺での使用はさけてください。
- ドジョウには特に影響を及ぼし、又比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、十分注意してください。
- 直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

● 農薬は正しく使いましょう！ ● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。● 小児の手の届く所には置かないで下さい。

2008年1月作成 全企画社 005